

GC 研究懇談会 2006 年度 事業報告

第 273 回ガスクロマトグラフィー研究会 - 講演会 -

「健康とセキュリティ」

2006 年 4 月 27 日（木） 薬業健保会館にて

- 主題講演 -

1. 「ガスクロマトグラフを用いたヒト発汗成分・皮膚ガス成分の検知、及び得られるヒトの身体情報」 - 汗のリアルタイム分析 津田孝雄（名古屋工大）
2. 毒物事件、化学テロとガスクロマトグラフィー 瀬戸康雄（警察庁科学警察研）

- 技術講演

1. IAMS 装置と最新応用例の紹介（バリアンテクニクス）
2. CWA（Chemical Warfare Agents）分析の実際（横河アナリティカルシステムズ）
3. GMP 環境下における研究者の安全・健康と実験室のセキュリティ（入退室管理システムのご紹介）（日立製作所）

45 名の参加者があった。

第 274 回ガスクロマトグラフィー研究会 - 講演会 -

「電子捕獲検出器（ECD）の基礎と応用：シッカリ学んでシッカリ使おう」

2006 年 6 月 30 日（金）（株）日立製作所秋葉原ダイビル 18 階大会議室にて

- 主題講演：準拠法と基礎理論 -

1. 放射線障害防止法の改定について 小谷博（島津製作所）
2. ECD の検出原理と応答特性 竹内正博（GC 技術研究所）

- 技術講演 1：装置

1. 放射線 ECD について 代島茂樹（横河アナリティカルシステムズ）
2. 非放射線 ECD について 栗田信二（日立サイエンスシステムズ）

- 技術講演 2：応用分析

1. 大気環境分析への応用 渡辺征夫（国立保健医療科学院）
2. 農産物中の有機塩素系残留農薬分析 河原井雅子（日立ハイテクノロジーズ）
3. オンライン GPC/GC による絶縁油中低濃度 PCB の簡易分析法 小林信弥（島津製作所）

60 名の参加者があった。

第 12 回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会

2006 年 8 月 1 日（火）首都大学東京 南大沢キャンパスにて

「キャピラリーガスクロマトグラフィーの基礎理論」 保母敏行（都立大名誉教授）

「キャピラリーカラムと試料導入法」 齋藤壽（島津製作所）

「検出器の原理と使い分け」 竹内正博（GC 技術研究所）

「GC/MS の基礎と応用例」 代島茂樹（横河アナリティカルシステムズ）

「各種手法、応用例に関する話題提供」 GC 研究懇談会運営委員会メンバー

49 名の参加者があった。

第 275 回ガスクロマトグラフィー研究会 - (株)住化分析センター見学会 -
2006 年 8 月 22 日 (火)

「各種放散試験法と国内外の動向」 野中辰夫 ((株)住化分析センター千葉事業所)
「CNET 法によるアルデヒド類の高精度評価技術」 北坂和也 ((株)住化分析センター大阪事業所)
2 講演と見学会が実施され、30 名程度の参加者があった。

第 276 回ガスクロマトグラフィー研究会 - 日中韓環境分析研究交流会シンポジウム -
2006 年 9 月 14 日 (木) ~ 18 日 (月)

場所：西南大学 (中国、重慶)

特別講演 3 件と招待講演が 17 件、オーラル発表 41 件、ポスター発表 38 件という数であった。直前に分析化学会の若手交流会が AYACS2006 を開催し、東南アジアからの参加者も残って参加したため日本の留学生と中国に留学している東南アジアの留学生との交流も同時に図ることができた。参加者は中国約 80 名、日本 22 名、韓国 3 名、AYACS から 3 名と盛況であり、会期中を通じて活発な研究討論と情報交換、懇親がはかられた。中国の参加大学数は 19、研究機関は 4 機関であった。趣旨に賛同いただいた研究懇談会は、GC、LC、IC、FIA、環境分析の各研究懇談会である。



第 277 回ガスクロマトグラフィー研究会 - 講演会 -

2006 年 9 月 20 日 (水) 分析化学会第 55 回年会 大阪大学にて

「環境分析におけるクロマトグラフィー / 質量分析法の応用」 今村 清 (大阪府環情セ)

座長 古野
約 60 名の参加者があった。

第 278 回ガスクロマトグラフィー研究会 - SS2006 (分離と検出の科学) -
2006 年 10 月 26 日 (木) ~ 27 日 (金) 首都大学東京 南大沢キャンパスにて
GC 関係の発表が多数あった。

第 279 回ガスクロマトグラフィー特別講演会
「クロマトグラフィーで迫る話題物質の分析」
2006 年 12 月 8 日 (金) 薬業健保会館にて

- 主題講演 -

- 1 . 最近の話題物質概論 前田恒昭 (産業技術総合研究所)
- 2 . 食品中残留農薬の分析 高野伊知郎 (東京都健康安全研究センター)
- 3 . 土壌の油汚染について 杉田和俊 (ダイヤ分析センター)
- 4 . 臭素系難燃剤と有機臭素系化合物の微量分析技術と課題 高管卓三 (島津テクノリサーチ)
- 5 . 直接加熱導入 GCxGC-MS による沿道大気中ナノ粒子の分析 落合伸夫 (ゲステル)

- 特別講演 -

- 1 . Miniaturized, automated and solventless sample preparation techniques applied to quality control in food and consumer protection Dr. Frank David (RIC & Ghent University)

- 技術講演 -

- 1 . 多機能パイロライザーを用いた熱脱着 GC/MS による PBDEs の迅速定量 武田紫穂理 (フロンティアラボ (株))
- 2 . 農薬及び環境ホルモン用データベース (926 化合物) を用いる食品中残留農薬の GC/MS スクリーニング分析 中村貞夫 (横河アパリティシステム (株))
- 3 . トリプルデータベースを利用した GC/MS による環境汚染物質等の包括的分析 山上仰 (西川計測 (株))
- 4 . GC 試料注入口冷却によるプレカラム濃縮法 芝本繁明 ((株)島津製作所)
- 5 . 超高速 GC-TOFMS の展開例 盛正実 (LECO ジャパン (株))

100 名程度の参加者があった。

第 280 回ガスクロマトグラフィー研究会 - 総会及び講演会 -
2007 年 2 月 23 日 (金) 薬業健保会館にて

1 . 総会

- 1) 2006 年度事業報告・会計報告
- 2) 2007 年度事業計画

2 . 講演会「GC キャピラリーカラムの最近の動向」

- 主題講演 -

- 1) GC キャピラリーカラムの最近の進歩 森川正己 (株)島津ジーエルシー)

- 技術講演 -

- 1) 繊維を充填したキャピラリーカラム 小寺健三 (信和化工株)
- 2) Agilent GC/MS 用カラムについて "農薬類の分離の比較" 内藤厚子 (アジレント・テクノロジー株)
- 3) 新規高極性カラム 90%シアノプロピルポリシルフェニレンカラム 藤井大将 (エス・ジー・イー ジャパン株)
- 4) 最近の光学異性体分離カラム 千賀芳紀 (ジーエルサイエンス株)
- 5) 迅速 GC/MS 分析に対応した最新のキャピラリーカラム 大川真 (バリアンテクノロジー株 ジャパン リミテッド)

.....

GC 研究懇談会 2007 年度事業計画

第 281 回ガスクロマトグラフィー研究会 2007 年 6 月頃

薬業健保会館 (予定) にて

講演テーマ「自動車内装材の分析」(仮題)

5 月 19~20 日 第 68 回分析化学討論会 宇都宮大学峰キャンパスにて

7 月頃 ガスクロ 「自由自在 Q&A (仮題)」出版予定

7 月頃 第 13 回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会

9 月頃 第 282 回ガスクロマトグラフィー研究会 見学会

9 月 19~21 日 第 283 回ガスクロマトグラフィー研究会 講演会

日本分析化学会第 56 年会 徳島大学工学部にて

10 月頃 第 284 回ガスクロマトグラフィー研究会

Separation Sciences 2007 にて

11 月 4~8 日 第 285 回ガスクロマトグラフィー研究会

中日韓環境分析研究交流会 2007 ASIANALYSIS 韓国済州島にて

GC 懇談会事業として 2002 年から海外交流活動をすすめており、本年度は 6 回目の開催となる。2005 年より活動はセパレーションサイエンスのメンバーに広がり、今年は韓国が窓口となって開催される。開催は第 9 回 ASIANANALYSIS のシンポジウムの一つとして運営されるので、ふるってご参加いただきたい。

開催期間：11 月 4 日から 8 日

開催場所：済州島 (韓国) Ramada Plaza

Home page : <http://www.asiananalysis2007.org>

会期中に韓国 GC 研究会との交流会を計画している。

12 月頃 第 286 回ガスクロマトグラフィー研究会 特別講演会

2008 年 2 月頃 第 287 回ガスクロマトグラフィー研究会 総会・講演会

GC 懇談会設立(1958 年)50 周年と 300 回開催を記念した事業計画を企画している。200 回記念を担当した渡辺征夫委員を中心に活動を開始する。

会員拡充にご協力をお願いします。